

# 止めよう! 変形労働制 41

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.41

全北海道教職員組合

2019.12.18

## 緊急シンポジウム～工藤祥子さんの講演より①

# 自分と、大切な人のために、休む勇気を! それは、正常な判断ができるうちにです

14日に開催した緊急シンポジウムでの、神奈川過労死等を考える家族の会代表、工藤祥子さんの講演を、数回に分けて紹介します。

### ●人間は、どんなに元気でも限界があります

こんなに健康でいきいきとした夫でも過労死をしてしまうということを、自分事として考えながらお話を聞いてください。

夫は、異動後、たった2か月で命を落としてしまった学校で、生徒指導専任の重責を引き継ぎもなく任せられ、毎日遅くまでの業務、休日も部活動や持ち帰り業務に追われる過酷な勤務が続きました。無理を押しつけて修学旅行を引率し、そこから体調が悪化して、11日後に他界してしまいました。「工藤先生ならできるだろう」と思われていたのですが、人間は、どんなに元気でも限界があります。

今の先生たちは、もっと忙しくなっていることが、とても残念でなりません。夫や、犠牲になった先生たちの死が生かされていないということです。

### ●大切な人や家族には、みなさんの代わりになる人はいません

学校には、先生がもし倒れて亡くなっても代わり的人はいますけれども、大切な人や家族には、みなさんの代わりになる人はいません。夫が亡くなった学校でも、学校は何とか回ったのですが、夫が亡くなった、お父さんが亡くなった家族には、もう二度とお父さんは戻ってきません。

どうしても覚えておいていただきたいことは、無理をして仕事をする勇気ではなくて、大切な人のために休む勇気を、ぜひ持ってください。それは、休むかどうか迷っているうちに、まだ正常な判断ができるうちにです。児童生徒のためにとやってきたことが、逆に一生忘れられない悲しみになってしまいます。夫も、それは、すごく悲しいと、天国で思っていると思います。

先生が余裕を持っていきいきと働いて人生を楽しむことで、子どもたちの将来のお手本になります。一日で一番長い時間をともに過ごす大人である先生が長時間労働をし、倒れたり、精神疾患になってしまったら、子どもたちが大人になって、そのような働き方が当たり前という労働者になったり、経営者になってしまいます。先生自身が人生を楽しめる働き方をするというのを、いろんな問題の前提においてください。

